

F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

早いもので今年もあとわずかです。皆さんにとって2021年はどのような年でしたか？

今年は延期されていた東京オリンピックが開催されました。無観客は少し寂しかったですが選手たちの活躍には勇気づけられるものがありましたね。

また、野球メジャーリーグの大谷選手の活躍も目を見張るものがありました。

今年も新型コロナに振り回されましたが来年こそはコロナ前の日常を取り戻せると良いですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

寿命が伸びたことで、「こんはずではなかった」というお金についての誤算が増えています。誤算を事前に知っておいてしっかりと準備しておきましょう。

がん患者の10年生存率58・9%

先月10日に国立がん研究センターはがん生存率（全部位）は、5年：68.9%、10年：58.9%、と発表しました。10年生存率は前回調査より0.6ポイント改善しています。

下表は胃がんと乳がんのステージ別の10年生存率です（全がん協加盟施設生存率協同調査より抜粋）

	I	II	III	IV
胃がん	73.9	48.1	30.8	4.9
乳がん	92.3	83.6	62.9	17.5

全部位、全ステージの平均が58.9%といっても発見ステージによって生存率が大きくなります。早期発見・早期治療が大切なことがわかりますね。

一方、新型コロナの影響でがん検診の受診者が激減しているというニュースもありました。

公益財団法人日本対がん協会（垣添忠生会長）によると、2021年上半期の受診者数（肺、胃、大腸、乳、子宮頸）はコロナ前の2019年上半期に比べて17%少なくなっているそうです。

早期発見の技術、治療の技術も日々進化しています。経済的な備えをしっかりとって検診を怠らないようにしたいですね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>

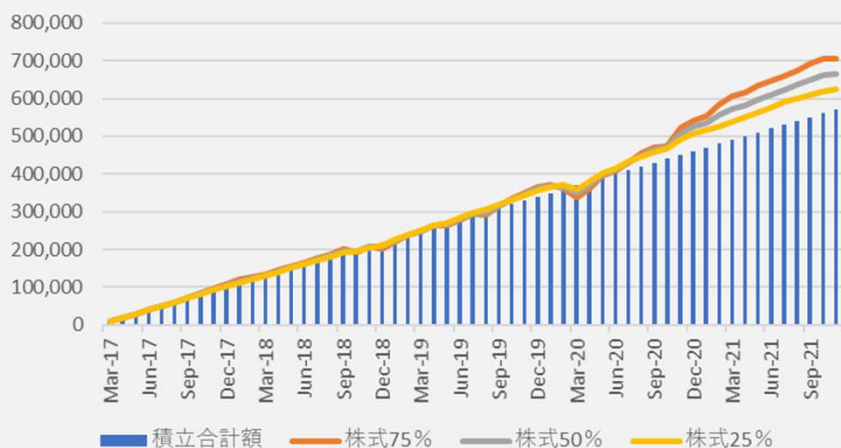


2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年9月末	550,000	692,099	650,926	609,720
2021年10月末	560,000	706,416	662,180	619,862
2021年11月末	570,000	704,293	663,937	625,648

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均	NYダウ	ドル円
10月末	28892.69	35819.56	114.00
11月末	27821.76	34483.72	113.13
	-3.71%	-3.73%	

変異株により大幅下落

NYダウ平均株価は11月8日に36,432ドルの高値を付けましたが、26日にはオミクロン型への懸念から1日で905ドル安と今年最大の下げ幅となりました。

ニュースの見出しも下記のように悲観的なトーンになっています。

- ・ 米株安重荷、オミクロン型に警戒
- ・ 東京株式市場前場 オミクロン株への警戒感で一進一退
- ・ オミクロン株警戒でNY株安 FRB議長の議会発言も材料に

オミクロン型の重症化リスク、感染力、既存のワクチン効果、などについては現段階（12月3日現在）では不透明です。

いまのところ金融各社のレポートを見るとそこまで深刻に捉えていないようです。

ただし、想定以上に重症化リスク、強い感染力などがあると株式市場は大きく下がることもあるかもしれません。

そうなると一層悲観的なニュースや解説が出てくると思いますが長期の積立投資ではそのような値動きを解説するニュースに惑わされずに継続することが成果に結びつくと考えています。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

変異株の状況を見てから積立を始めたほうがよいですか？

大きな下落があると少し様子を見てから積立を開始したほうが良いのでは、と感じることも多いと思います。今月は積立投資を始める時期について整理します。

下図は1998年から日本で販売している外国株式インデックスファンド（日本を除く先進国の株式市場に連動）の値動きと購入月によるパフォーマンスの違いを表しています。

グラフの見方

青線：ファンドの値動き

オレンジ線：投資額（100万円）

オレンジ棒：下軸の年月に100万円投資していたら2021年10月末時点でいくらになっているか

例えば、①の時期（リーマンショック前年の高値）に100万円投資していたら2021年10月末時点で235万円、②の時期（リーマンショック後の安値）に100万円投資していたら2021年10月末時点で610万円、になっていたことがわかります。



このグラフを見ると2つのことがわかります。

- 高値で投資開始しても時間の経過で報われた
- 開始時期によってパフォーマンスに大きな違いがある

一方こちらのグラフは全く同じ商品を積立で投資した場合を表しています。

グラフの見方

青線：ファンドの値動き

オレンジ線：下軸の年月日から毎月1万円の積立を

2021年10月まで継続した場合の積立で合計額

オレンジ棒：下軸の年月日から2021年10月末まで積立を継続していた場合の評価額

①の時期に積立を開始、2021年10月まで続けていた場合、積立合計額は172万円、評価額は470万円になっています。②の時期に始めた場合、積立合計額153万円が409万円です。



同じ値動き（青線）の商品ですが随分とグラフの形が違います。

一括投資では投資期間と投資時期にパフォーマンスが影響を受ける一方、積立投資では投資時期ではなく投資期間がパフォーマンスに影響を与えることがわかります。

変異株、利上げ、インフレ懸念、などにより株価は大きく動くことがあります。積立投資ではそのようなニュースに惑わされず、早く始めて長く続けることが大切です。

ちょっと気になるお金のコラム

年末年始には将来に向けてマネープランを考える人も多いのではないのでしょうか？

日本経済新聞の何でもランキング「人生100年時代、お金の誤算」、上位4位までを紹介します。

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO73420610Q1A630C2W01000/>

長寿化により思わぬ誤算に出くわさないため、「こんなはずではなかった」、とならないため、しっかりと準備しておきたいですね。

1位 介護費用の負担が重い

生命保険文化センターの調査では、介護を行った期間は平均54.5カ月、介護に要した費用は一時金の平均が69万円、毎月の平均が7.8万円でした。

介護が始まると自分で買い物や手続きができなくなることから節約もできなくなると言われています。

85歳以上では約6割の人が介護が必要になります。介護は必要になるものとして準備をしておくことが必要ですね。

2位 老後も支出が減らない

老後は自然と出費が減ると考えている人も多いようですが、実際には地域コミュニティとのつながり、現役時代に我慢していた趣味の開始などにより、現役時代よりも出費が多くなるケースもあるようです。

退職金で気が大きくなり浪費癖がつくと取り返しがつかなくなってしまうです。

老後を迎える人は今あるお金、年金などもらえるお金をしっかり把握して資金計画を作ることが大切です。

3位 住居費がかさむ

住まいも古くなると修繕費がかさんできます。マンションも古くなると修繕費積立金の値上げになるケースも多いと思います。

少し古い調査ですが、自宅修繕にかけた費用の総額は平均556万円（平均築年数35.8年）、築30～34年で平均495万円、築35～39年で平均583万円と築年数が古くなると修繕費も多くなるようです。（at home 2016年）

<https://athome-inc.jp/wp-content/themes/news/pdf/kodate-shuuzen-201607/kodate-shuuzen-201607.pdf>

4位 住宅ローン問題

住宅ローンの完済予定年齢は73歳と20年前と比べ5歳上がっています。退職後、収入がない（減る）なかローンの返済は大きな負担になります。

繰り上げ返済、退職金で完済、長く働く、などローンを組んでいる人は早めに対策を検討しておくことが大切です。

退職後のお金の誤算は思わぬ痛手になることがあります。貯金や保険を上手に使ってしっかりと備えておきましょう。

具体的にどのように備えておけば良いか気になる方はお気軽にお問合せください。